

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200770		
法人名	医療法人社団 飯盛会		
事業所名	グループホーム いいもり		
所在地	福岡県福岡市西区飯盛664-1		
自己評価作成日	平成25年6月28日	評価結果確定日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/1/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanitrue&lgvosoQd=4071200770-008PefQd=40&VersionQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

職員の勤続年数が長く明るいので、ホーム全体も明るい雰囲気。 一歩外に目を向ければ、飯盛山をのぞむ自然豊かな環境。 森林浴をしながらの飯盛神社までの散歩コースは最高です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯盛山の麓に抱かれるような自然豊かな場所に、精神科病院やデイケア・精神障害者のGH・作業所等の施設と併設されてGHIいいもりはある。理事長が病院の患者や地域に恩返しをする気持ちで開設以来11年目を迎え、利用者と職員の間には長年の馴染みの信頼関係が作られていた。開設当初は地域の偏見もあったが、管理者や職員のたゆまぬ努力が功を奏し、昨年の開設10周年記念パーティには地域の方たちも沢山参加される等、今では地域からも信頼される事業所になっている。利用者の高齢化が進み外出レク等の回数が減ってきているが、その分事業所内で楽しんで貰える催しを工夫されていた。入所の1・2カ月は、事業所の決りごとなどは度外視して本人の好きなように、多少の我慢も聞き入れて事業所に馴染んで貰うようにしているとのこと。職員も開設以来、長年勤務している人が多く、産休や育休後に子育てをしながら就労している人もいて、働き易い職場環境が職員の笑顔にも表れており、ホーム全体を明るい雰囲気にしていた。地域貢献も含め、今後の発展に大いに期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の唱和とケアカンファレンスで理念に基づいた目標を毎月立てケアを行っているかを確認している。	法人と事業所の理念が事務所とホールに掲示されており毎日の朝礼で唱和されている。理念は開設時の職員で作り上げ、数年前に地域に対しての姿勢も付け加えた。法人の全体ビジョンに沿って事業所の年間目標と月間目標を定め、具体的な実行に移しており、法人の全体朝礼で成果発表も行うことで、振り返りもなされている。	理念に沿った具体的な目標が定められ、ケアに活かされている。一日の時間感覚をつかんでもらい、昼夜の判断を出来るようにするという目標の実現に向けて取組が進められることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの行事に近隣の方を招き交流を深めている。飯盛神社の季節行事や町内の清掃活動にも参加している。	法人として町内会に加入しており、地域総会にも参加している。地域情報は民生委員から提供され、利用者も一緒に地域清掃に参加したり、地域の敬老会にも招かれ、毎年の「ふれあいサロン」にも招待されている。全体で行う夏祭りには地域も招き、大々的に行っており、150名以上が集まり盛況であった。	地域との交流は相互に積極的になされているが、今後もより一層の地域交流の発展のため、介護勉強会の開催や、幼稚園との交流など、情報発信や受け入れが行われていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に来て頂き、グループホームについて説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、地域の方、ご家族、包括支援センターの方に出席して頂き入居者や職員も参加し話し合いの場をもちカンファレンス等で報告している。	民生委員、地域包括、家族、利用者も参加され、事業所からの行事。状況報告がされている。昨年は避難訓練と同日に開催し、取組を見学してもらった。地域代表からも積極的に意見が出されている。	参加者の幅を広げていくために、家族への呼びかけや市区職員への案内がされていくことが望まれる。議事録の公開や配布を行うことで、参加者以外にも広く取組を知ってもらい、より発展的な会議の運営がなされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を行い話し合いの場を作っている。グループホーム協議会主催の市の職員との意見交換に出席し、意見を交換しあっている。	グループホーム連絡協議会の参加で、市の担当職員と交流の機会を持っている。保護課の担当など、何かあった時や質問がある時などは電話や訪問によって相談されており、地域包括とも連携をとっている。主に管理者が中心となって関わりを持っている。	区と関わる機会が少ないため、運営推進会議の案内や議事報告、介護保険の申請などで訪問機会を作って、担当課との関係がさらに深まっていくことに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の参加で得た知識を勉強会で報告し全職員が共有できるよう努めている。入居者の状態により現在施錠状態にあるが外出の希望があれば添えるようにしている。また出来るかぎり散歩等の機会を作るようにしている。	防犯上の問題もあり、玄関施錠は日によって行われているが、外出要望がある時は職員の見守り、付添によって一緒に外出している。万一の離設に備えて、併設病院との連絡体制や対応マニュアルを準備している。四点柵の利用があるが、説明・同意の上で行っている。年2回法人と合同で拘束に關しての研修を行い、職員全員が参加し理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月例勉強会を実施し説明を行い職員間でも注意、指摘し合える関係作りに取り組んでいる。		

自己・外部評価表 (GHいいもり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し、得た知識を他の職員にも報告する場を作り、ご家族に対しても要望があれば説明をしている。	成年後見制度を利用されている方が1名おり、入居後に事業所の協力の下利用につながった。管理者が主に担当し、市や関係機関とも連携して支援している。外部研修の案内があった時には参加し、研修報告によって全体で情報を共有している。	必要な時には関係機関などと連携して対応する体制が出来ているが、利用者や家族に説明するための資料やパンフレットの準備がなされることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分に説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者の変化に目を配り、日常的に話を聞く機会を作っている。公的な窓口があることを説明し、家族との意見交換や情報収集を行っている。	市や関連団体の連絡先が記載されたポスターが掲示されている。面会時の家族とのやりとりや、電話などで月に1、2回は何らかのコミュニケーションをとっている。行事案内やお便りを定期的に出しており、以前は家族会も開催していた。お便りには利用者ごとに手紙を書いて報告をしており、以前あげられた要望によって職員の名前と顔が一致して勤務状況が分かるように改善した。	以前は開かれていた家族会を忘年会などの行事と同時開催することで出席しやすくなり、病院の意見箱を活用して意見を出しやすくすることで、隠れた意見を引き出し、さらにサービス改善に活かされていくことが期待される。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場リーダーの意見を聞き、現場の意見もリーダーを通じて取り入れている。	毎日カンファレンスを行い、意見を出し合って業務や入居者に関して話し合われている。ケアに関しての意見も取り入れ、その都度改善されている。年に2回自己評価と管理者からの評価を行うことでフィードバックされている。職員の要望などもあり、調理手順なども改善されてきた。日頃からも意見の言いやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常時滞在し代表者に毎日の朝礼で報告、相談を行っている。代表者は人事考課表にて評価し、よりよい職場環境作りに務めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職場の募集、採用にあたっては性別、年齢などを採用対象にしていない。また各職員がその能力を活かし、職員が自己表現アピール出来る場であるよう環境作りに努めている。	長く勤めている職員も多数おり、年代、性別を問わずに、特技・経験・得意分野を活かして働き、法人の教育委員会で話し合われた教育や研修の機会がある。休憩場所や時間の確保もされ、シフトも相談の上で調整することで、子供がいても働きやすい環境に配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	2ヶ月に1回の会議を持ち教育に取り組んでいる。	法人全体で、人権擁護委員会が2カ月毎に開かれ、意見箱に挙げられた内容や、人権擁護に関して話されている。委員会から事業所に伝達されており、年に1、2回程度、人権に関しての研修を行っており、人権に関しては全体で特に力をいれている。	

自己・外部評価表（GHいいもり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに必要とされる外部研修の参加や毎月の院内研修への参加を呼びかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、協会、市が主催する研修に参加し、職員間の交流を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長各職員が目を配り声かけ、気にかかる方には個別の時間を作り話を聞き関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃からご家族の意向を聞き、その意向を反映するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談を待ちながら必要なサービスを利用できるよう務めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での出来ること（炊事、洗濯、掃除）を職員と一緒にしながら、その日、その日の生活を共有している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者についての情報交換を密にし、コミュニケーションを取りながらケアにも参加してもらえよう働きかけている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人との手紙のやりとりや電話の取次を行っている。また、馴染みの場所や思い出の場所を尋ねる機会を作っている。	入居時に本人、家族から聞き取った内容を元にして、事前に許可をもらった、馴染みの飲食店やスーパーの買物などへ個別ケアで対応している。手紙の代筆や電話の支援もしている。重度化に伴ってやりとりが少なくなってきたが、家族や知人が訪ねやすい環境を作り、事業所の支援が難しい場合は家族に協力もしてもらっている。	

自己・外部評価表（GHいいもり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者同士の散歩や食事の席を同じにしたり、家事参加を呼びかけあい入居者同士がかばいあい支えあっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には契約書に添った説明を十分に行い退去後も不安解消の為相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを優先し、できる限り希望や意向を取り入れるよう務めている。	本人の要望や、面会時などに家族から聞き取った情報をもとにしたり、意志疎通が難しい場合は普段の表情や生活を見ながら読み取っている。喜んでいるときの様子を申し送りやカンファレンスで共有し、時間をかけて慣れていくようにアプローチしている。本人の意向をくみ取ることで、やりたいようにやってもらえる介助を心がけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を大切にしながら、本人や家族からの情報を元にして把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが出来る事を出来る範囲で自由に発揮できるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と受け持ち担当者が介護計画を作成している。面会時等、家族と面談する機会を持ち本人、家族の意向を取り入れるよう務めている。	モニタリングは毎月行い、カンファレンス時に全体で話し合う。短期目標の見直しも毎月し、プランの見直しは長くても半年で行う。プランや記録の様式は職員で随時話し合い、改良してきた。個人ファイルを日々の記録と一緒に管理することで、情報のひも付けを行い、職員も責任をもって担当する利用者の計画作成から携わっている。家族の意見も日頃の面会などで照会し、必要があれば看護師など専門職の意見も取り入れている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのカルテにて日々の変化、表情等を記録し各職員が情報を共有できるようにしている。カンファレンスノートや申し送りノートも活用している。		

自己・外部評価表（GHいいもり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の要望を聞き外出や個々の趣味などにおける本人らしい時間を過ごしてもらえるよう支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動に参加している。近隣のカフェ、コンビニに行く等、楽しみを見つけて自分らしく生きて行ける様支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣老人施設との交流を積極的に行い、説明、情報提供を行っている。	希望があれば今までのかかりつけ医を継続してもらおうが、大半が併設の提携病院に移り、なれた職員がつくことで安心してもらい、通院介助は職員が行っている。提携以外の専門科には家族同行による支援をし、遠方への通院介助は自費負担により行う。定期受診は2週に1回あり、歯科や眼科も希望があれば往診を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員が週に1回訪問し、入居者の健康管理、医療活用にいかしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院、近隣老人施設との交流を積極的に行い、説明、情報提供を行っている。地域の病院との情報交換を行い退院後の対応を含めた相談をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を取り入れ職員が出来る範囲で具体的な対応策を挙げ、家族には十分な説明を行った上で医師を交え、同意書の作成、方針を話し合い、チームとしての支援が出来る体制を取り入れている。	状態が変わった際に方針を説明し、同意書をもっており、過去に看取りまで行った方も何名かいる。看取り計画書も作成して対応し、併設の病院とは綿密な医療連携を行っている。ターミナルケアに関して病院や事業所内での研修や勉強会も行い、支援体制の確保に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修で救急時の対策を医師より説明を受け、出席出来ない職員はレポートを提出している。		

自己・外部評価表（GHいいもり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会で意見交換を行いマニュアルに添って年に1回避難訓練を行っている。病院全体を含め年2回行っている。非常食、水の備蓄もしている。	併設病院の夜勤者とも協力し、事業所単体の夜間想定訓練を年に1回するほか、病院と合同で全体訓練も毎年行う。消防署とも合同で開催し、昨年は運営推進会議とあわせて地域の方にも参加してもらった。緊急通報装置は病院とも連動しており、AEDも病院内に設置されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し各職員が人生の先輩であると言う認識を持ち常に言葉遣い等に配慮している。	研修会は法人全体で年1回実施。3年に1回は外部講師を招いて接遇研修を行い終了後テストを実施している。朝礼時には身だしなみチェック表で確認。接遇は人生の先輩を敬うという基本を押さえながら、夫々の利用者に合わせて対応しており、言葉遣いが不適切な時はについては管理者がその都度注意している。	接遇や言葉遣いについては、声掛けの大きさや周囲への配慮、相手の立場に立った話し方などについて年1回はGHだけで研修を実施し、更なる対応の工夫がなされることに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で入居者と向かい合い出来る範囲で自己決定を促し納得いくまで話あっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりに合ったペースで過ごせるように配慮している。又入居者を優先する事を常に意識し、ケアの中に業務を上手く融合している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり、職員が身だしなみを整えている。月に1度訪問理美容を受けているが、希望者は望む店に行けるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力に応じて準備や片付けなど協力して行っている。献立で嫌いなものやアレルギーがあるときは、別メニューで行っている。	開設当初は職員が調理し、利用者の手伝い等も活発だったが、利用者の高齢化が進み日常生活の支援に力を入れられるように、との思いから、今は食材も含めて外注し温めて提供している。外食レクも減ってきているが、敬老会などの行事の時は美味しいJAの弁当を食べて貰ったり、誕生日には家族が好物を持参して楽しんで貰うこともある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量や水分量のチェックを行っている。摂取量が少ない人には十分取っていただけるよう摂取表を作りこまめに声かけを行っている。		

自己・外部評価表（GHいいもり）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後の洗面時、食後の歯磨き入れ歯の洗浄をしたり声かけにて促している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、リズムをつかむようにし声かけタイミングをはかり排泄の失敗やおむつの使用量を減らすよう心がけトイレで排泄して頂けるよう務めている。	食事の前後等に定期的トイレ誘導し、排泄チェック表で夫々の排泄パターンを掴んで対応し、毎日のカンファレンスでオムツの種類などを確認し合って適切な対応を心掛けている。トイレ誘導によって失禁が少なくなり、リハパンツからパットだけに改善されたり、オムツの使用量が減って負担が軽減された利用者も多い。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各職員が重要性を理解し、水分補給や運動等を意識し、個々に応じた薬の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望を取り入れ希望の時間に入浴できるように取り組んでいる。拒否が見られる方には声かけ方法やタイミングを計っている。	本人の希望にあわせて、ほぼ隔日で利用して貰っている。入浴を嫌がる人には、「一緒に入りましょう」と誘ったり、気の合う人と二人で入浴して貰うなど、日々、色々な工夫をして楽しんで頂けるようにしている。入浴剤は使っていないが、柚子湯や菖蒲湯等の季節浴を楽しんでもらう事がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みのある寝具を利用したりホットミルク等飲み物を用意する等して安心してもらえるように務めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の説明書をカルテに閉じ、職員がいつでも確認できるようにしている。申し送りを徹底、職員一人ひとりが薬の目的、重要性を理解し支援を行っている。又、服薬の際は複数の職員で声だし確認をおこなっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を活かし、園芸、家事手伝い、月1回の民謡サークル等その方に合った楽しみをみつけ支援している。		

自己・外部評価表 (GHいいもり)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい日は散歩や買い物、ドライブに誘ったり花見やイベントを企画し、家族や近隣の方への参加を呼びかけ交流の機会を作っている。	歩行ができる方は毎日、事業所で飼っている犬の散歩に出かけている。気候が良い時には車椅子の方も一緒に近くの田んぼの周囲を散策したり、飯盛神社の様々な行事にも参加している。以前は西公園に花見に行くこともあったが、高齢化が進み遠出が困難になってからは敷地内での桜や梅の花見を楽しんで貰っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じ希望があれば一緒に買い物に行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば家族へ電話したり電話を取り次ぐようにしている。了承を得た上で手紙や電話のやり取りをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作った作品を飾ったり、季節に合った飾り付けをしている。	中庭と階段を中心に木造りの廊下が回廊式に二つのユニットを繋げており、利用者は自由にユニットを行き来できるようになっている。壁には入居者の写真や作品が飾られていて居心地よい工夫がなされていた。事業所の横にはステージも配置された園庭が広がっており、桜の木立ちが春は花を、夏は木陰を提供してくれていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファの設置、円形の食卓テーブル2個、独り掛けのイスも設置している。テラスではガーデニングをし、くつろげる空間作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のタンスや仏壇等持ち込んだり、ご家族の写真飾り付けている。	利用者に合わせて高・低の介護ベッドが備え付けられていた。全て洋間になっているが、和室を好まれる方には床にクッションを敷いて自由に寝転がれるように工夫されている。使い慣れたタンスや仏壇等の持ち込みも自由で、家庭的な雰囲気作りがなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレには手すり、浴槽には手すり、滑り止めを設置し、台所にはIHを採用。流し台の高さは入居者のサイズにしている。		